

2011 中野区区民意識・実態調査

《概要版》

調査の概要

【調査の項目】

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 定住意向 | 4 生活の安全（見守り・支えあい） |
| 2 生活環境の満足度 | 5 施策への要望 |
| 3 生活の安全（防災） | |

【調査対象】 中野区民で20歳以上の男女個人

【標本数】 2,000人

【有効回収数】 1,395人（有効回収率69.8%）

【標本抽出方法】 層化二段無作為抽出法

【調査期間】 平成23年7月19日（火）～平成23年8月8日（月）

【調査方法】 郵送配布・訪問回収

概要版の見方

- 1 （複数回答）と記述されたもの以外は、選択肢を1つだけ選ぶ設問です。
- 2 集計は小数点第2位を四捨五入して算出しているため、回答率を合計しても100%にはならない場合があります。
- 3 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しています。このため、複数回答の設問については合計が100%を超えることがあります。
- 4 グラフや数表中の「n=*」（*は数字）は設問の回答者数を表します。

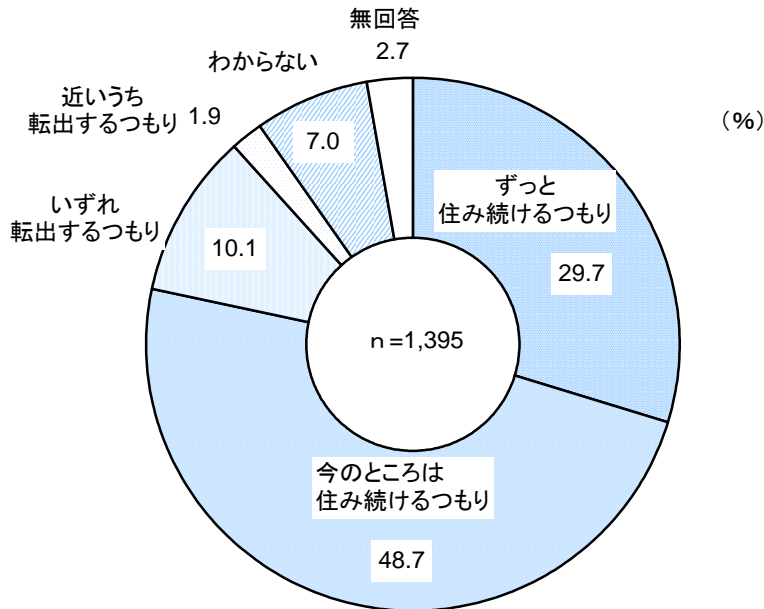
2012年（平成24年）2月

中野区

1 定住意向

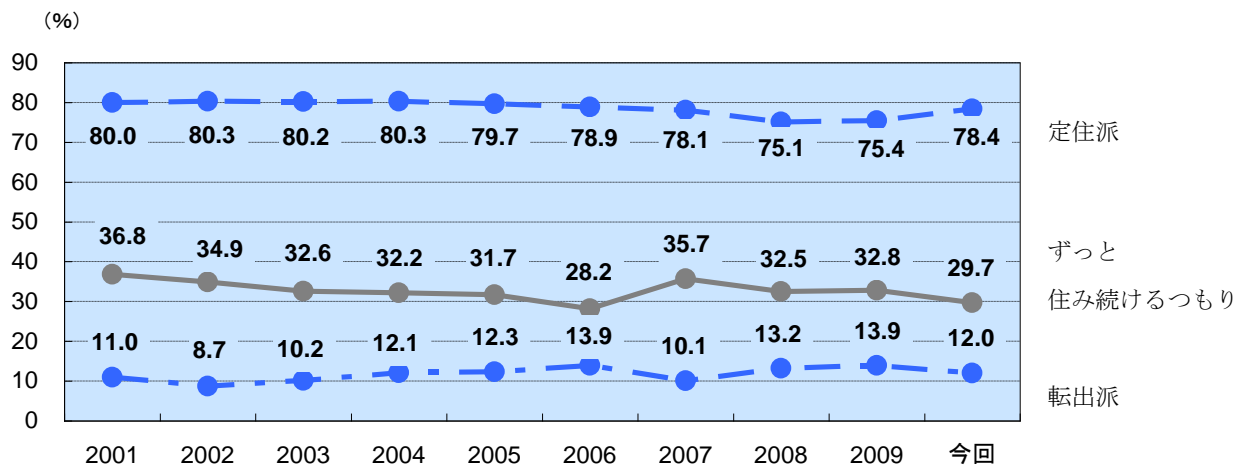
1 定住意向

定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けるつもり」、「今のところは住み続けるつもり」の合計を『定住派』、「いずれ転出するつもり」、「近いうち転出するつもり」の合計を『転出派』とすると、『定住派』が78.4%、『転出派』が12.0%となっている。



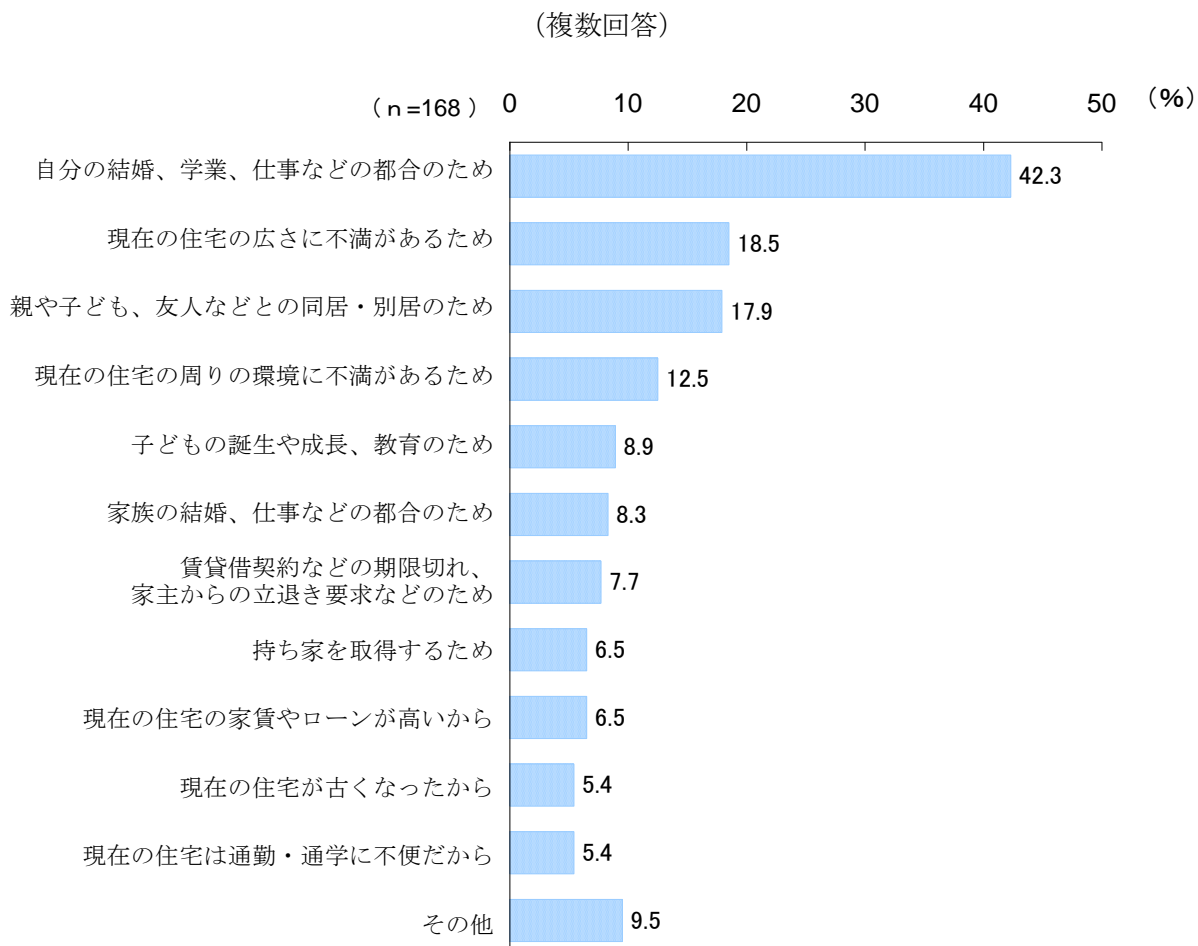
1-1 定住意向の推移

定住意向の過去10年間の推移をみると、『定住派』は2005年以降減少傾向であったが、2009年から増加に転じ、前回より増加して78.4%となった。また、『転出派』は減少し12.0%となった。



2 転出理由

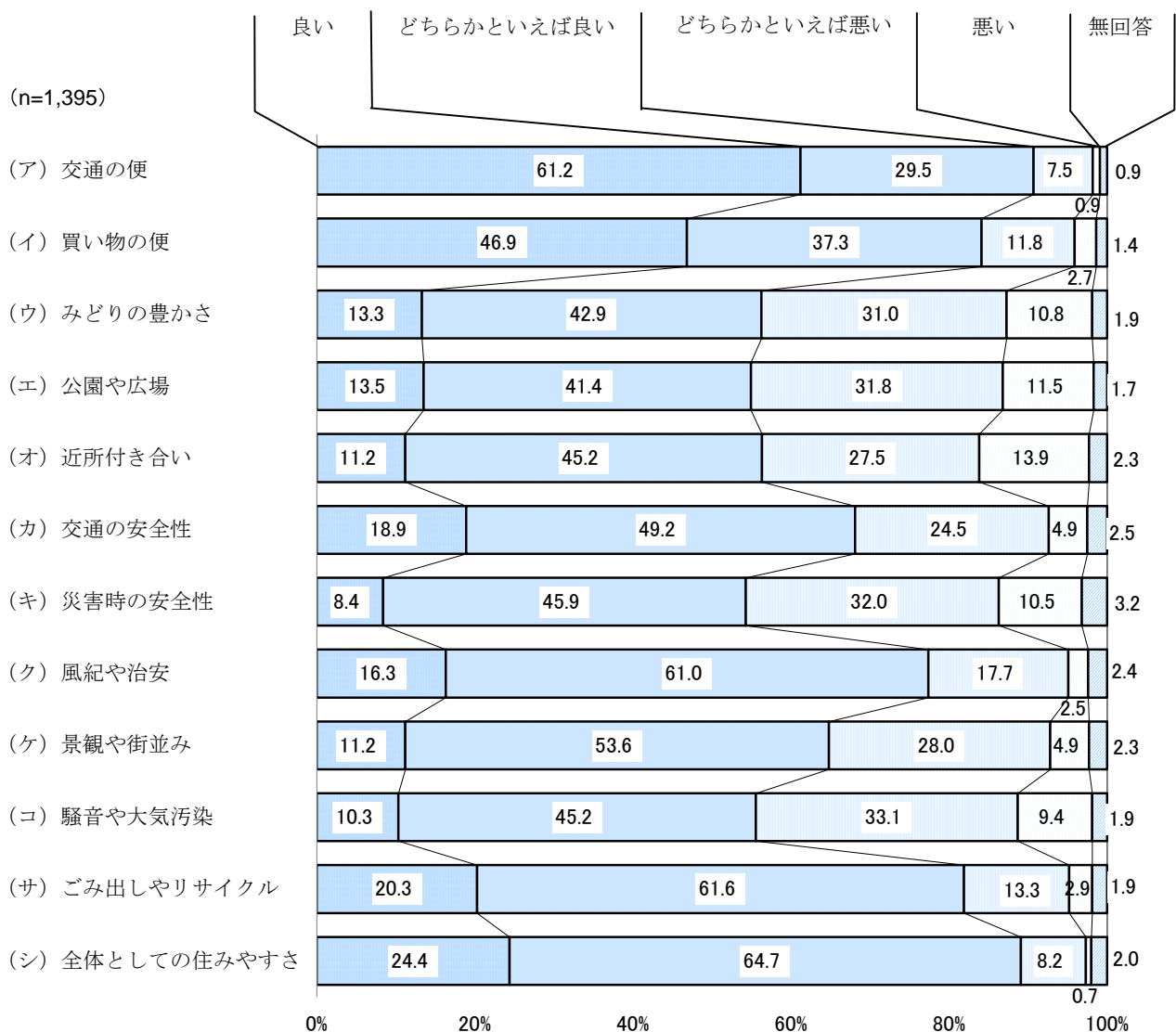
転出を考えている人に転出理由を聞いたところ、「自分の結婚、学業、仕事などの都合のため」(42.3%)が最も高く4割程度となっている。次いで「現在の住宅の広さに不満があるため」(18.5%)、「親や子ども、友人などとの同居・別居のため」(17.9%)、「現在の住宅の周りの環境に不満があるため」(12.5%)となっている。



2 生活環境の満足度

1 生活環境の満足度

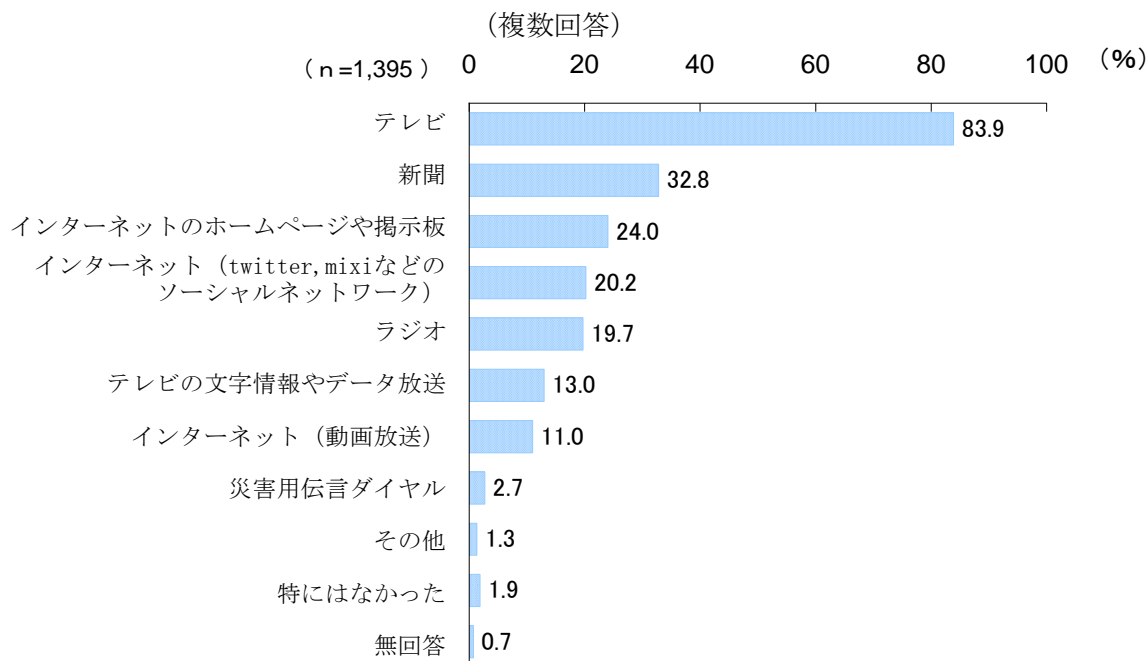
自宅周辺の生活環境に関する各項目について聞いたところ、「良い」、「どちらかといえば良い」を合計した『良い評価』は、「交通の便」(90.7%)が最も高く、次いで「全体としての住みやすさ」(89.1%)、「買い物の便」(84.2%)、「ごみ出しやリサイクル」(81.9%)となっている。一方、「悪い」、「どちらかといえば悪い」を合計した『悪い評価』は、「公園や広場」(43.3%)、「災害時の安全性」と「騒音や大気汚染」(42.5%)、「みどりの豊かさ」(41.8%)、「近所付き合い」(41.4%)の順で高い割合となっている。



3 生活の安全（防災）

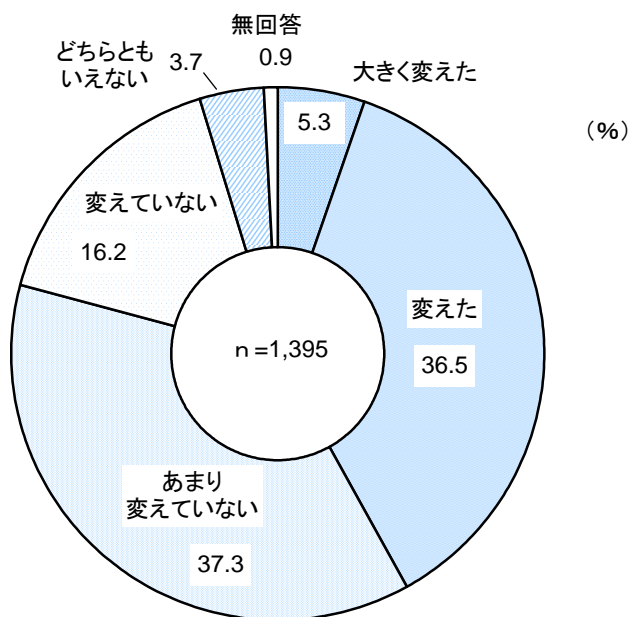
1 「東日本大震災」発生直後の有用な情報源

「東日本大震災」発生直後に、震災や被害状況などについて有用な情報を何から得たかを聞いたところ、「テレビ」(83.9%)が最も高く、次いで「新聞」(32.8%)、「インターネットのホームページや掲示板」(24.0%)、「インターネット (twitter, mixi などのソーシャルネットワーク)」(20.2%)、「ラジオ」(19.7%)となっている。



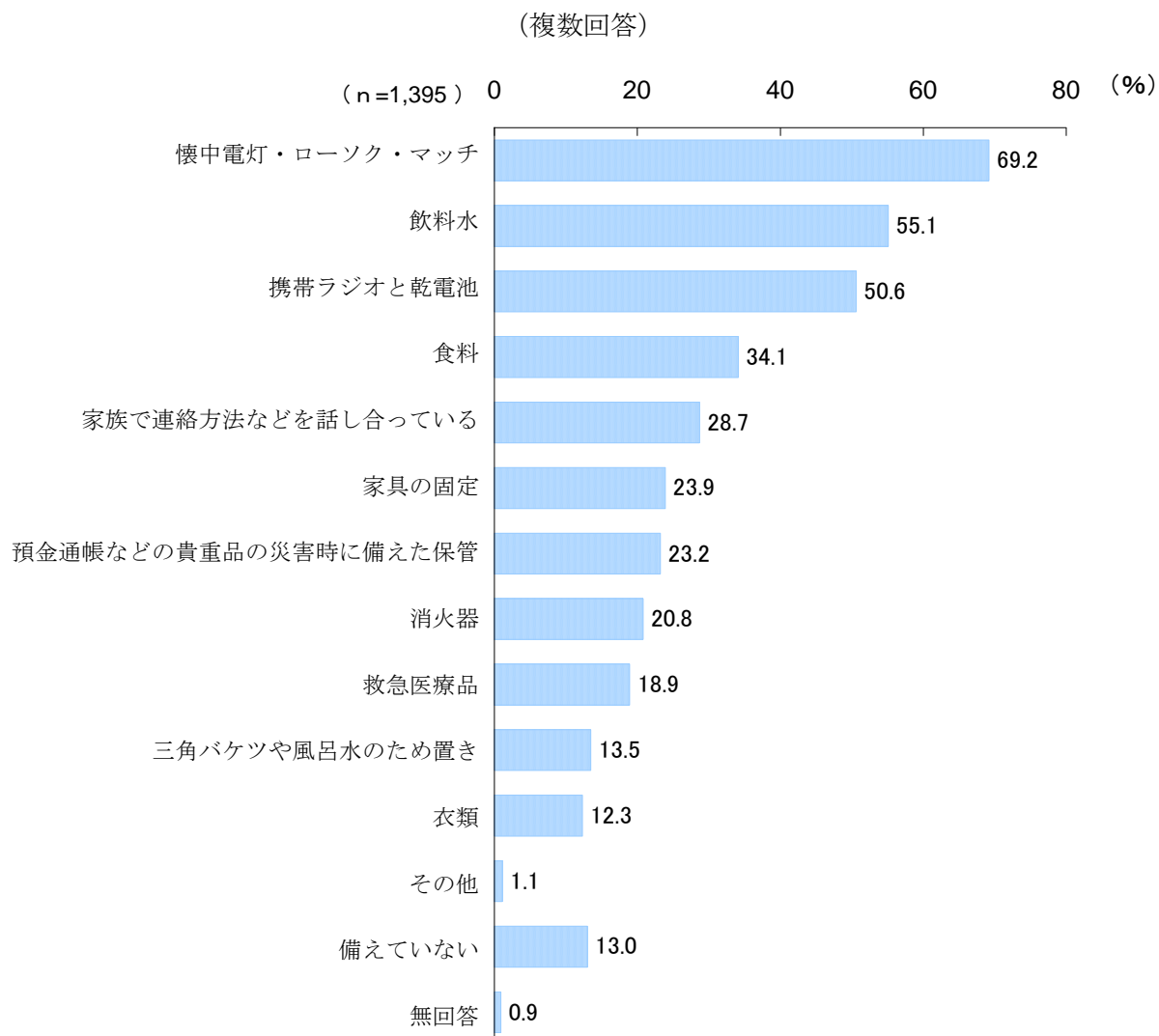
1-1 「東日本大震災」後の防災対策の変化

「東日本大震災」の発生後、防災に対する備えを変えたかどうかを聞いたところ、「大きく変えた」(5.3%)と「変えた」(36.5%)を合計した『変えた』人は約4割となっている。一方、「あまり変えていない」(37.3%)と「変えていない」(16.2%)を合計した『変えていない』人は5割を超えている。



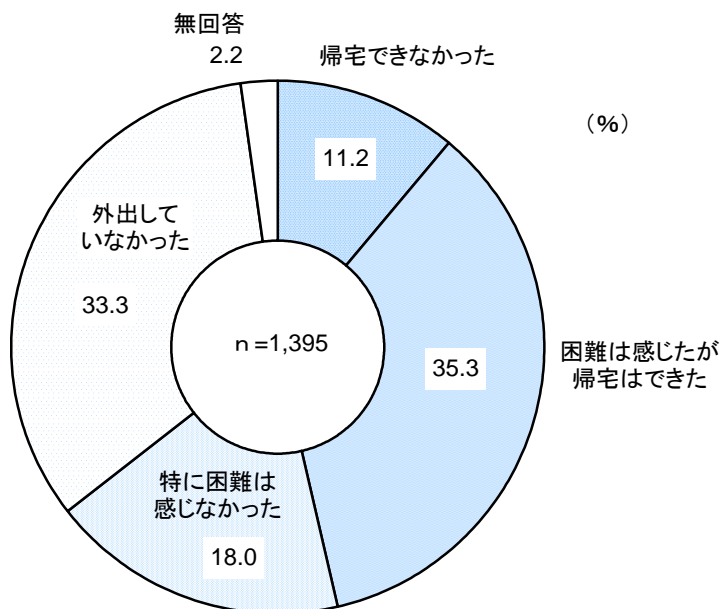
2 地震に対する備え

地震に対して、現在行なっている備えを聞いたところ、「懐中電灯・ローソク・マッチ」(69.2%)が最も高く、次いで「飲料水」(55.1%)、「携帯ラジオと乾電池」(50.6%)、「食料」(34.1%)、「家族で連絡方法などを話し合っている」(28.7%)となっている。



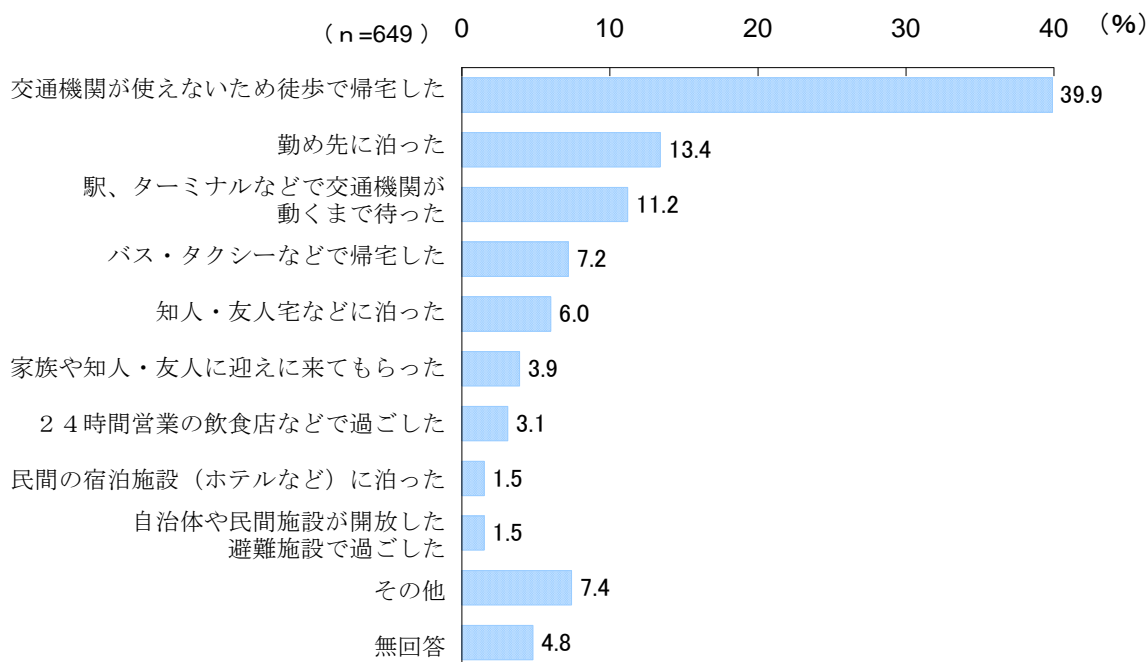
3 「東日本大震災」当日の帰宅状況

「東日本大震災」当日の帰宅状況を聞いたところ、「困難は感じたが帰宅はできた」(35.3%)が最も高く、次いで「外出していなかった」(33.3%)、「特に困難は感じなかった」(18.0%)、「帰宅できなかった」(11.2%)となっている。



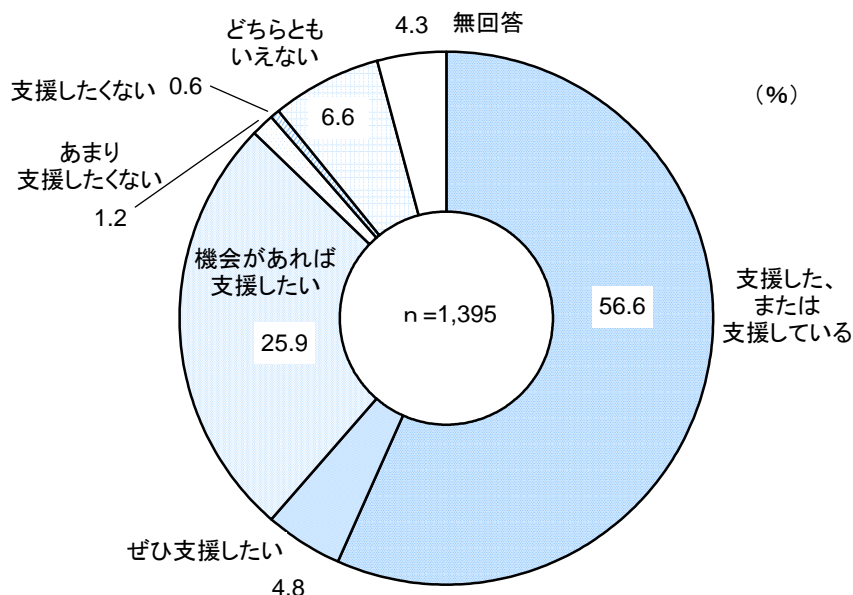
4 「東日本大震災」当日の過ごし方

「東日本大震災」当日に帰宅困難であった人に当日の過ごし方を聞いたところ、「交通機関が使えるため徒歩で帰宅した」(39.9%)が最も高く、次いで「勤め先に泊った」(13.4%)、「駅、ターミナルなどで交通機関が動くまで待った」(11.2%)、「バス・タクシーなどで帰宅した」(7.2%)となっている。



5 「東日本大震災」の復興支援活動意向

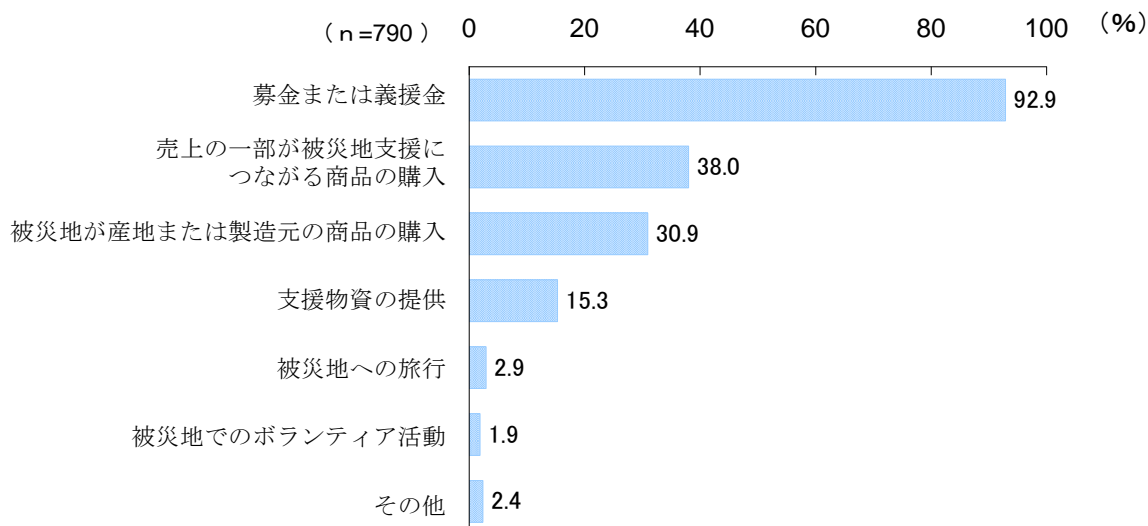
「東日本大震災」の復興支援活動の意向を聞いたところ、「支援した、または支援している」(56.6%)が最も高く、次いで「機会があれば支援したい」(25.9%)となっている。「支援した、または支援している」、「機会があれば支援したい」、「ぜひ支援したい」を合計した『支援意向のある』人は8割半ばを超えている。



6 復興支援内容

「東日本大震災」の復興支援の活動内容を聞いたところ、「募金または義援金」(92.9%)が最も高く、次いで「売上の一部が被災地支援につながる商品の購入」(38.0%)、「被災地が産地または製造元の商品の購入」(30.9%)、「支援物資の提供」(15.3%)となっている。

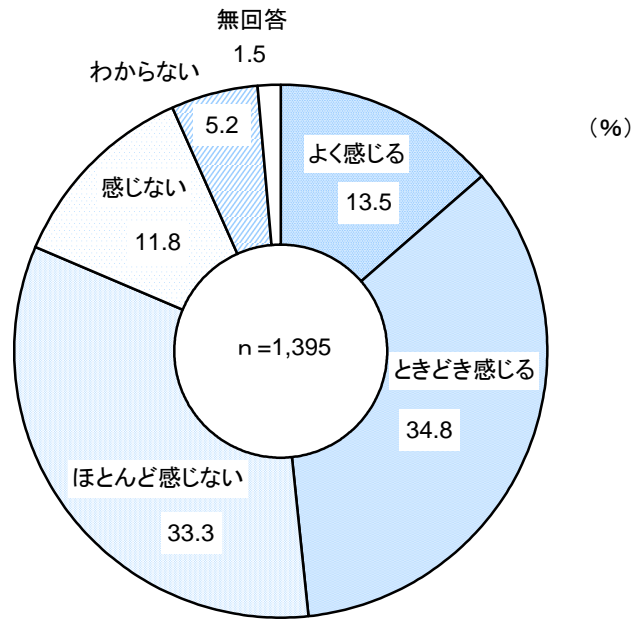
(複数回答)



4 生活の安全（見守り・支えあい）

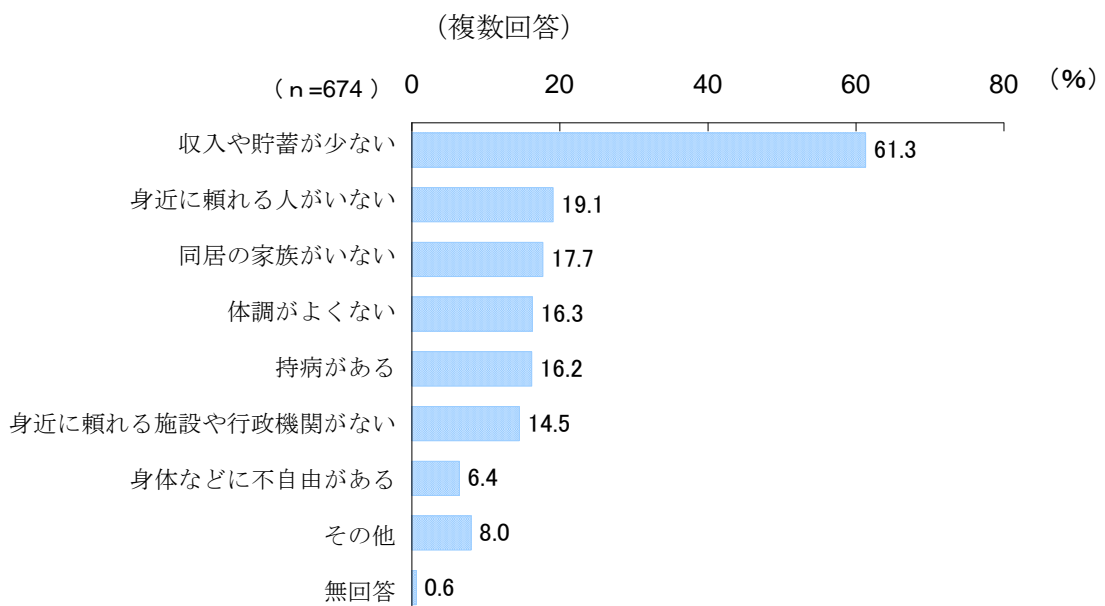
1 日常生活での不安

自身の健康状態、社会とのつながり、経済状況などについての不安について聞いたところ、「ときどき感じる」(34.8%)が最も高く、「よく感じる」、「ときどき感じる」を合計した『不安を感じている』人は約5割となっている。一方、「ほとんど感じない」、「感じない」を合計した『不安を感じていない』人は4割半ばとなっている。



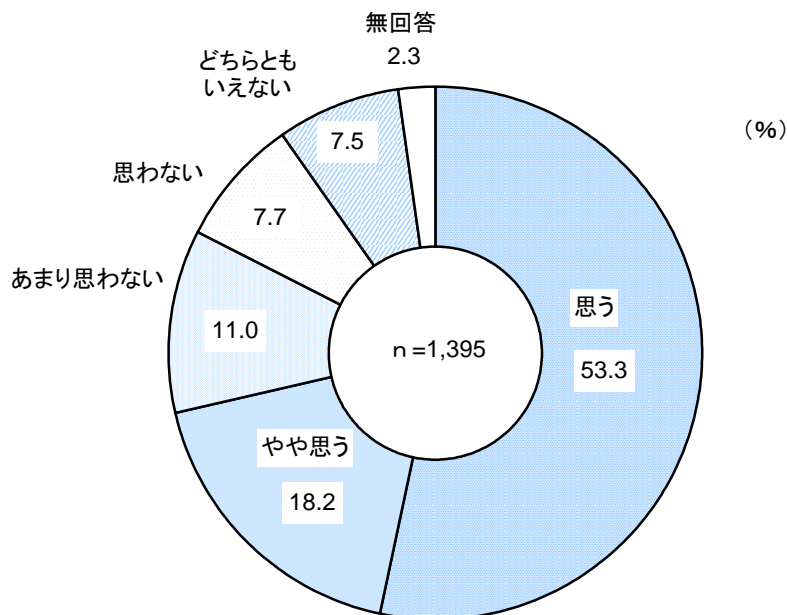
1-1 日常生活で不安を感じる理由

『不安を感じている』人にその理由を聞いたところ、「収入や貯蓄が少ない」(61.3%)が最も高く、次いで「身近に頼れる人がいない」(19.1%)、「同居の家族がいない」(17.7%)、「体調がよくない」(16.3%)、「持病がある」(16.2%)となっている。



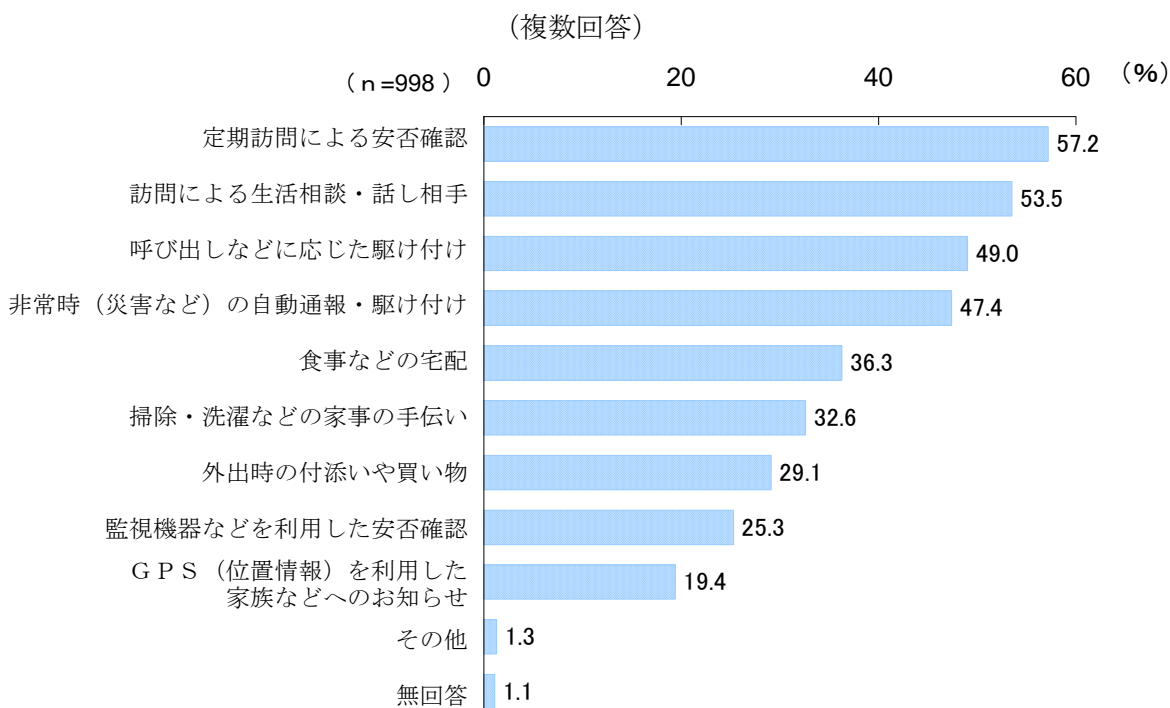
2 見守りサービスの必要性

見守りサービスの必要性を聞いたところ、「思う」(53.3%)が最も高く、次いで「やや思う」(18.2%)、「あまり思わない」(11.0%)、「思わない」(7.7%)となっている。「思う」、「やや思う」を合計した『必要だと思う』人は7割を超えている。一方、「あまり思わない」、「思わない」を合計した『必要だと思わない』人は約2割となっている。



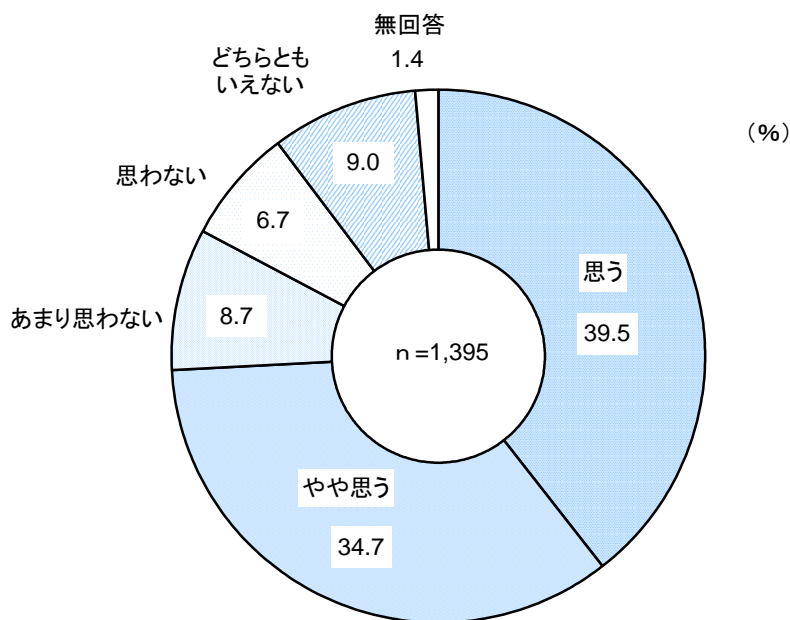
3 必要だと思う見守りサービスの内容

『必要だと思う』人にそのサービスの内容を聞いたところ、「定期訪問による安否確認」(57.2%)が最も高く、次いで「訪問による生活相談・話し相手」(53.5%)、「呼び出しなどに応じた駆け付け」(49.0%)、「非常時(災害など)の自動通報・駆け付け」(47.4%)となっている。



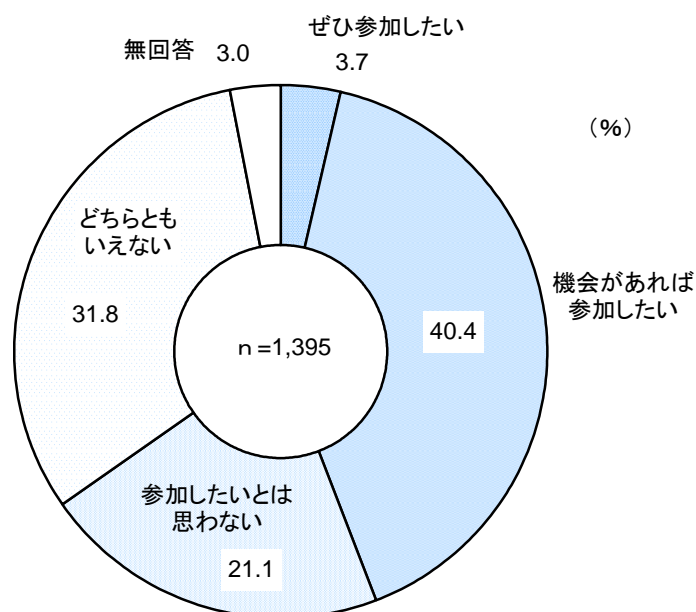
4 ご近所同士の支えあいや見守りの必要性

ご近所同士の支えあいや見守りの必要性について聞いたところ、「思う」(39.5%)が最も高く、次いで「やや思う」(34.7%)、「あまり思わない」(8.7%)、「思わない」(6.7%)となっている。「思う」、「やや思う」を合計した『必要だと思う』人は7割を超えている。一方、「あまり思わない」、「思わない」を合計した『必要だと思わない』人は1割半ばとなっている。



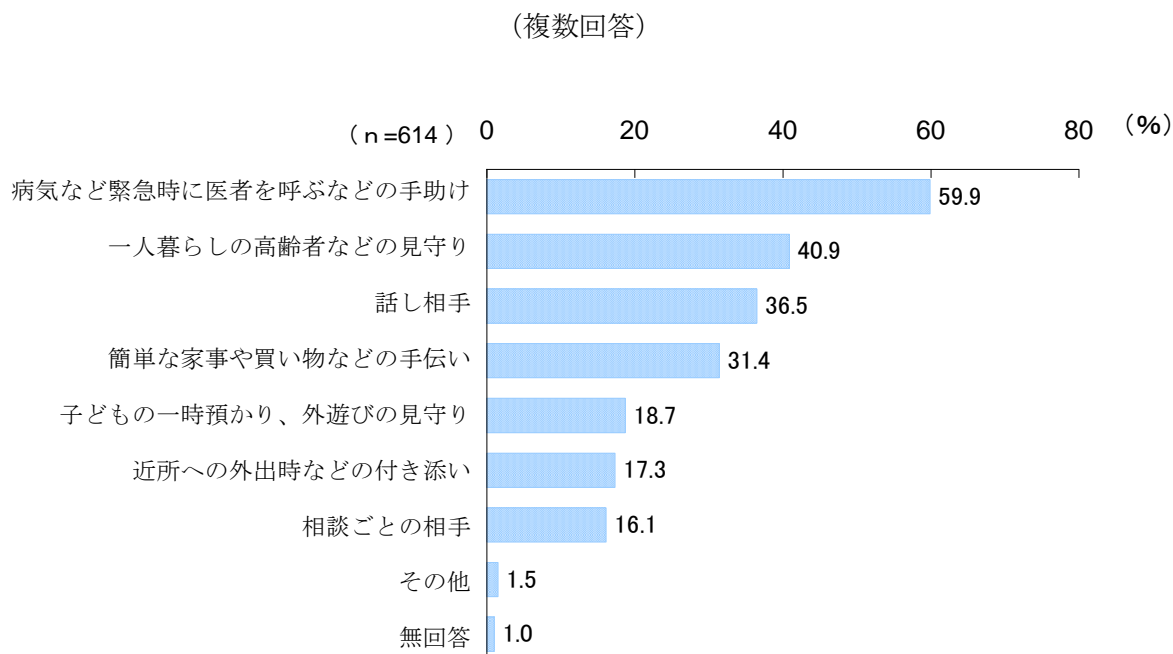
5 近隣での支えあいや見守り活動への活動参加意向

近隣での支えあいや見守り活動への参加意向を聞いたところ、「機会があれば参加したい」40.4%が最も高く、「ぜひ参加したい」「機会があれば参加したい」を合計した『参加したい』人は4割半ばとなっており、「どちらともいえない」が31.8%、「参加したいとは思わない」が21.1%となっている。



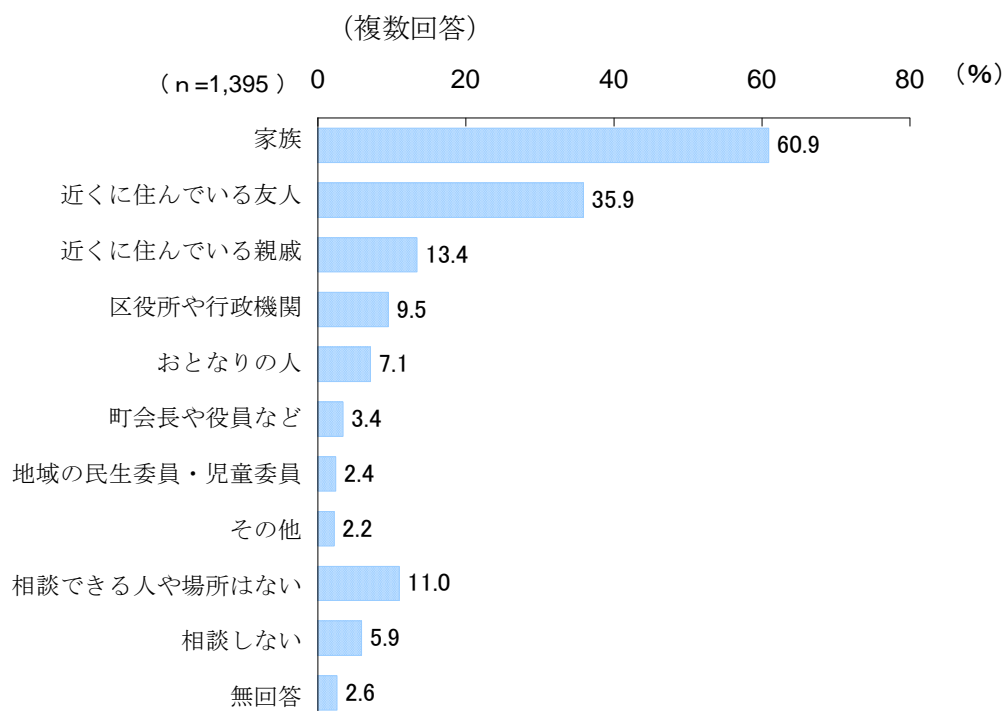
6 参加したい活動内容

『参加したい』人に具体的な活動内容を聞いたところ、「病気など緊急時に医者を呼ぶなどの手助け」(59.9%)が最も高く、次いで「一人暮らしの高齢者などの見守り」(40.9%)、「話し相手」(36.5%)、「簡単な家事や買い物などの手伝い」(31.4%)となっている。



7 困った際の地域での相談先

困りごとの地域での相談先を聞いたところ、「家族」(60.9%)が最も高く、次いで「近くに住んでいる友人」(35.9%)、「近くに住んでいる親戚」(13.4%)、「区役所や行政機関」(9.5%)となっている。また、「相談できる人や場所はない」が11.0%みられた。



5 施策への要望

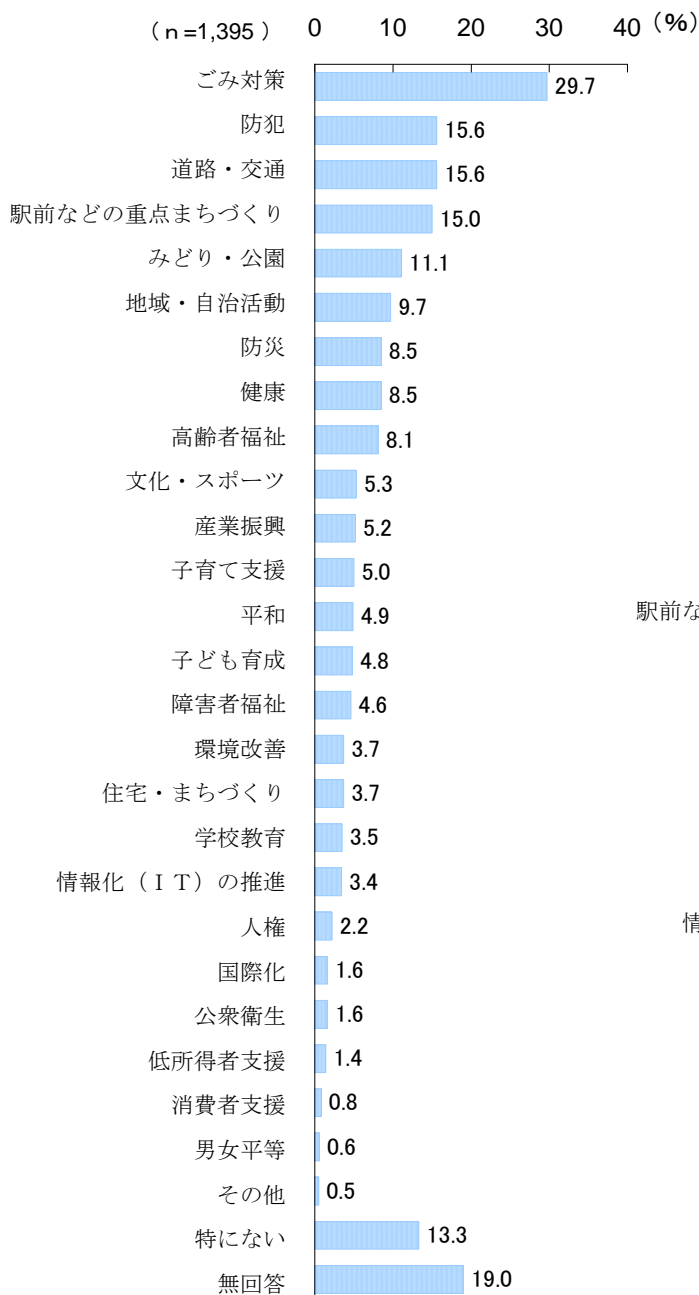
1 区の施策への評価と要望

区が力をいれていると評価できる施策を聞いたところ、「ごみ対策」(29.7%)が最も高く、次いで「防犯」と「道路・交通」(ともに15.6%)、「駅前などの重点まちづくり」(15.0%)、「みどり・公園」(11.1%)、「地域・自治活動」(9.7%)となっている。

また、今後特に力を入れてほしい施策を、1位から3位の順位をつけてあげてもらったところ、その合計では「防災」(28.9%)が最も高く、次いで「防犯」(22.9%)、「高齢者福祉」(22.8%)、「みどり・公園」(21.9%)となっている。

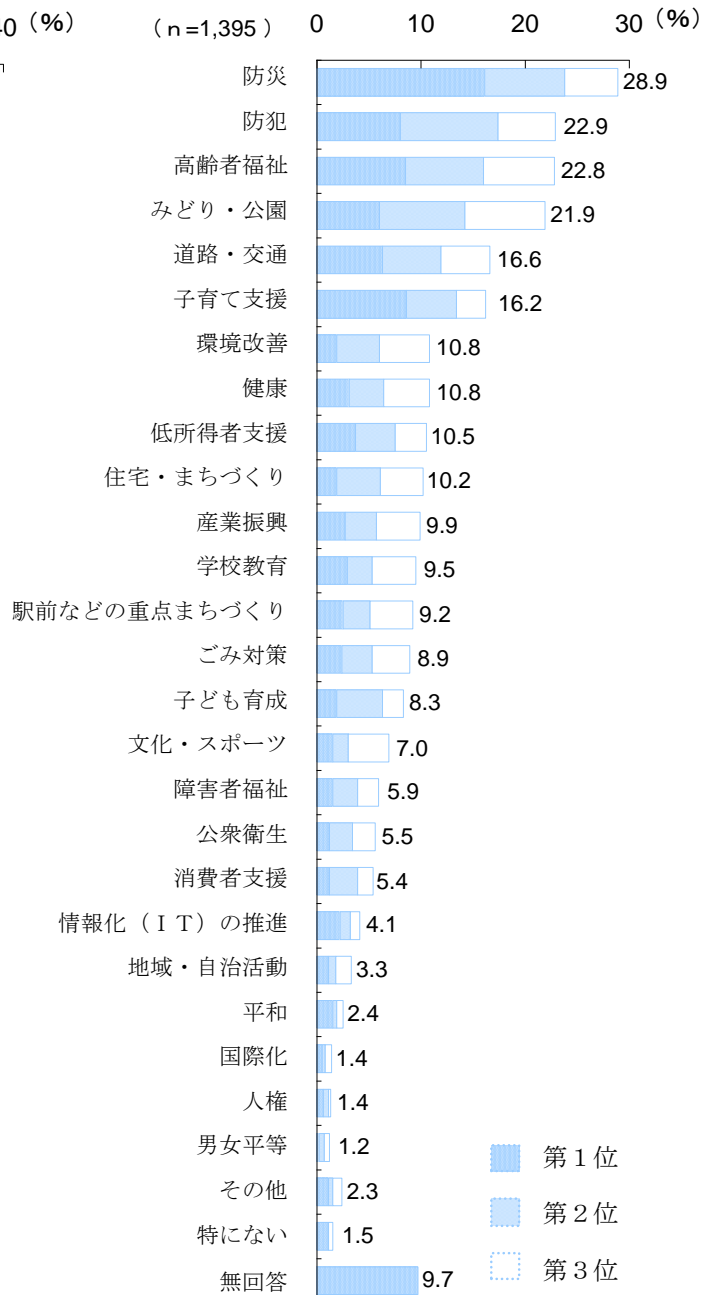
【区の施策への評価】

(複数回答)



【区の施策への要望】

(第1位～3位と合計)



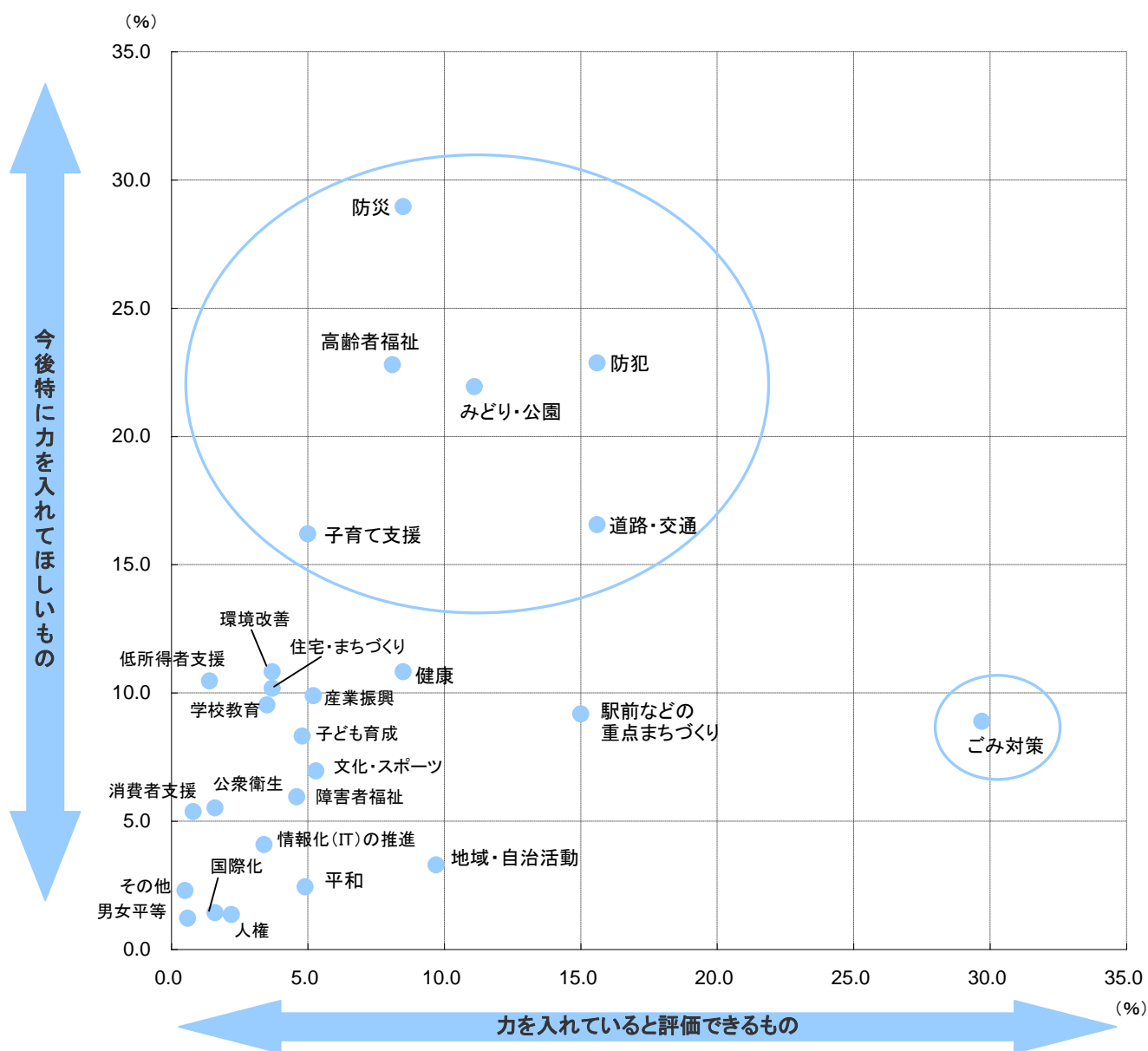
1-1 区の施策への評価と要望（散布図）

区の施策への「評価」と「要望」の関係を見るために、「力をいれていると評価できるもの」を横軸に、「今後特に力をいれてほしいもの」を縦軸にとり、25項目とその他の位置をあらわしたのが以下の図である。

この図では、左下に位置するほど「評価」も「要望」も低い施策であることを、反対に図の右上に位置するほど「評価」も「要望」も高い施策であることを意味している。さらに、左上に位置するほど「評価」は低く、「要望」が高い施策であることを、反対に右下に位置するほど「評価」が高く、「要望」が低いことを意味している。

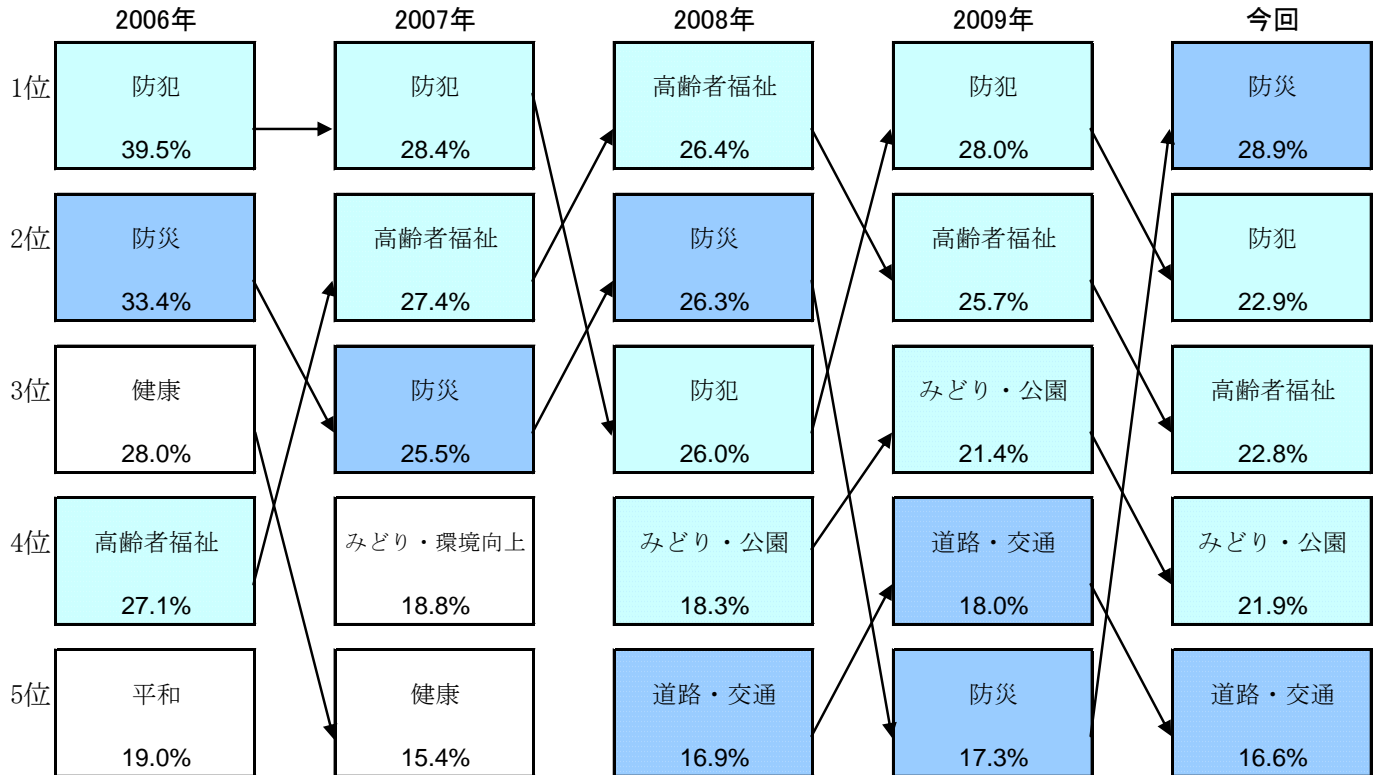
それぞれのカテゴリー別でみると、左上には「防災」、「防犯」、「高齢者福祉」、「みどり・公園」、「道路・交通」、「子育て支援」が位置づけられている。また、右下には、「ごみ対策」のみが位置づけられている。

図 10-7 区の施策への評価と要望 散布図



2 区の施策への要望（順位の変化）

過去5回の区の施策要望上位5位の推移をみると、前回5位であった「防災」が1位になり、「防犯」、「高齢者福祉」、「みどり・公園」、「道路・交通」がそれぞれ1つずつ順位を落としている。



2011 中野区区民意識・実態調査概要版

平成 24 年 2 月

文書番号 23 中政企第 894 号

発行 中野区政策室政策情報担当

〒164-8501

東京都中野区中野 4-8-1

電 話 03-3228-8892

F A X 03-3228-5643